

< あなたの治療について >

血内 - Elranatamab (25c 以降) - MM - q2w

今回の治療は、Elranatamab という治療法で、エルレフィオという注射薬で治療を行います。エルレフィオは腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎治療全体の流れ

今回の化学療法は2週間が1コースとなっています。各コースの1日目に皮下注を行います。この治療を2週間（14日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎1コース分の治療スケジュール

薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～14日目
エルレフィオ (抗がん剤) 76mg/body	皮下注		お休み

★ 注射部位が痛い、赤くなっている、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

エルレフィオによる

- 好中球減少症、リンパ球減少症、貧血 ●疲労
- サイトカイン放出症候群 ●注射部位反応（紅斑、発疹、そう痒感、硬結等）

◎特徴的な副作用について

エルレフィオにおける

●サイトカイン放出症候群

「吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸（どうき）、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血」などの症状

●神経学的事象（免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む）

「失語症（言葉が理解できない、言葉での表現ができない）、意識レベルの変化（意識の低下、意識の消失）、認知能力の障害（言葉や状況が理解できない、人や物の名前が分からないなど）、筋力低下（筋肉に力が入らない）、けいれん発作（顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、手足の筋肉が硬直しガクガクと震えるなど）、脳浮腫（めまい、意識の低下、頭痛、視力の低下など）」などの症状

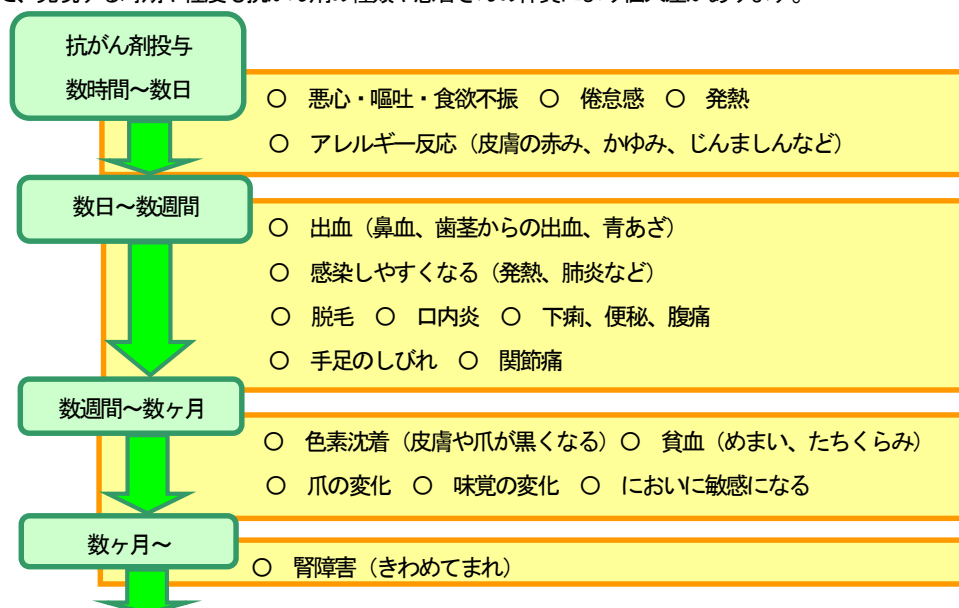
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【エルレフィオ】

〔サイトカイン放出症候群〕 吐き気、胃がむかむかする、頭痛

〔神経学的事象（免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む）〕 頭痛、手足のしびれ・痛み、錯乱状態、両側の手や足に力が入らない、歩行時につまずく、浮動性めまい、意識レベルの低下、失神

〔感染症〕 発熱、寒気、咳・痰、息切れ・息苦しい、体がだるい

〔血球減少〕 発熱、寒気、体がだるい、めまい、鼻血、歯ぐきからの出血

〔低γグロブリン血症〕 発熱、寒気、体がだるい

〔間質性肺疾患〕 咳、息切れ・息苦しい、発熱

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。